



第4回

継体大王と推古女帝

(後編)

現在、全国的な注目を集めている馬門石。宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。

日本最初の女帝・

推古天皇

最近、女性天皇の是非を巡る論議が活発ですが、みなさんは歴史上の女性天皇を挙げるとすれば、誰を思い浮かべますか？

おそらく「推古天皇」と答える人が最も多いのではないのでしょうか。

推古天皇は有力豪族・蘇我氏の一族で、今城塚古墳（大阪府高槻市）の馬門石石棺に葬られた継体大王（天皇）は祖父にあたります。西暦592年〜628年まで在位した日本最初の女帝で、甥の聖徳太子を※摂政とし、※冠位十二階や※十七条の憲法の制定など統治体制の強化に努めました。その一方で、母親としての顔も持ち、息子の竹田皇子を寵愛したと伝えられています。

その推古天皇の初陵（最初の墓。後に大阪府太子町の現・推古陵に移葬）が見つかった

のは平成12年のこと。発見当時、新聞・テレビなどで大きく報道されました。

大発見！推古天皇の

初陵・植山古墳

平成12年の夏。奈良県橿原市教育委員会の濱口和弘さんや作業員の人達は、小高い丘の上に約1400年前に築かれた古墳を調査していました。

大王のひびきを運ぶ実験航海

その古墳の名は植山古墳。大きさは東西40m、南北32m、高さ6m。遺体が納められた石室が並ぶ「双室墳」と呼ばれる全国的にも珍しい古墳です。

土に埋もれた石室をスコップ



植山古墳東石室から発掘された馬門石石棺



上空から見た植山古墳

プで掘っていたところ、「カッ」と石に当たった音がしました。

した。さらに掘り進めると、見た事もないピンク色の巨大な石棺の蓋が姿を現し、濱口さん達は仰天しました。すぐに馬門石の石棺と判明し、さらに古墳が造られた時期や土地、日本最古の歴史書『日本書紀』の記述から、植山古墳が推古天皇と竹田皇子の墓であることがわかったのです。

推古天皇と聖徳太子、

宇土との接点

593年に聖徳太子が建立した四天王寺（大阪市天王寺

区）の南大門近くに、たまたみ1畳ほどの「礼拝石」があります。なんとこれも馬門石製なのです。推古天皇と聖徳太子、この両者と宇土の接点は、どこにあるのでしょうか？

この謎を解くカギは、750年に記された次の一文にあります。

「肥後国宇土郡大宅郷戸

主額田君得万呂：「正倉院丹裏文書」。この文書から古代宇土の行政単位のひとつ「大宅郷」（範囲は不明）に住む、額田部君得万呂という人物がいたことがわかります。

実は、推古が天皇に即位する前の名は「額田部皇女」。つまり、宇土に推古天皇に関連する領地があり、その子孫が大宅郷の戸主として宇土に存在したと読めます。四天王寺に馬門石製の礼拝石があることも、聖徳太子が推古天皇の甥にあたることから納得でき



四天王寺の礼拝石

ます。

古代日本を代表する人物と宇土とのつながり。この驚くべき1400年前の接点は、つい最近わかってきたことです。近い将来、私達がまだ知らない大発見が待ち受けているかもしれないですね。

今回の6月15日号は第5部「古代と海への挑戦」。いよいよ目前に迫った実験航海。これまでの取り組みを前編と後編に分けて振り返ります。

※摂政：天皇に代わって政務を行う。

※冠位十二階：冠の色によって位の高低を表した制度。

※十七条の憲法：日本最初の憲法。